

平成 29 年度 厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）「診療情報データベースを用いた帯状疱疹の疫学等に関わる研究」について

研究代表者 池田 俊也

研究の背景と目的

帯状疱疹の発症予防を目的とした帯状疱疹ワクチンが承認され、厚生科学審議会において、定期接種に位置付けることの是非に関する検討が開始された。過去に報告された様々な科学的知見を収集・整理したファクトシートに基づいた議論が行われたが、十分に把握されていない科学的知見等として、全国レベルでの疾病負荷が把握されていないこと、帯状疱疹の治療の現状や診療にかかる費用の現状が十分に明らかとなっていないこと、それらに基づく国内の状況を踏まえた定期接種導入により期待できる効果や費用対効果の推計がなされていないこと、が指摘された。

本研究では、診療情報データベース（NDB）を用いて、帯状疱疹に関する診療情報を分析し、現在の全国での疾病負荷を推計するとともに、帯状疱疹の診療にかかる費用の全体像を把握することを目的とする。

研究の進捗状況

NDB サンプルングデータ（入院ならびに入院外レセプト）を用いて、様々な検索条件により、年齢別の帯状疱疹患者数、入院患者数、帯状疱疹後神経痛の患者数、ならびに、帯状疱疹に関連する医療費や入院期間等の算出を試みるなどの作業を行っている。

今後の研究計画

NDB サンプルングデータの集計結果を踏まえて、帯状疱疹患者を適切に抽出するための検索条件を特定した上で、NDB の全数データを用いた集計表を依頼する予定である。